

ビスフォスフォネート製剤 フロー図

骨密度上昇効果がある	エチドロン アレンドロン イバンドロン リセドロン ミノドロン
椎体骨折発生抑制効果がある	アレンドロン イバンドロン リセドロン ミノドロン
非椎体、大腿骨近位部骨折発生抑制効果がある	アレンドロン リセドロン
週1回製剤がある	アレンドロン リセドロン
月1回、4週間1回製剤がある	リセドロン ミノドロン イバンドロン
ゼリー製剤がある	アレンドロン
糖尿病患者でも椎体、非椎体骨折防止効果がある	アレンドロン
糖尿病患者でも骨密度上昇と骨吸収マーカー抑制効果がある	リセドロン
妊婦、高度の腎障害のある患者には禁忌	リセドロン

効能・効果	第一推奨薬	第二推奨薬
骨粗鬆症	アレンドロン（ボナロン[®]、フォサマック[®]） 骨密度の上昇効果・椎体骨折の抑制効果・ 非椎体骨 折の抑制効果・大腿骨近位部骨折の 抑制効果が評価 1日1回、週1回製剤がある ゼリー剤がある（先発のみ） リセドロン(アクトネル[®]、ベネット[®]) 骨密度の上昇効果・椎体骨折の抑制効果・ 非椎体骨 折の抑制効果・大腿骨近位部骨折の 抑制効果が評価 妊婦、妊娠している可能性のある婦人、及び高度の腎 障害のある患者(Ccr値：約30mL/分未満)には禁忌 1日1回、週1回、月1回製剤がある	ミノドロン(リカルボン[®]、ボノテオ[®]) 日本人骨粗鬆症患者を対象として、かつ、日本で 承認された用量で骨抑制効果が検証された唯一の ビスホスホネート系薬剤である 1日1回、4週間1回製剤がある

5種類（エチドロン酸、アレンドロン酸、イバンドロン酸、リセドロン酸、ミノドロン酸）の経口ビスフォスフォネート製剤が発売されている
成人の骨粗鬆症に対するフォーミュラリである
高度な腎機能障害患者で、低カルシウム血症のリスクが増加したとの報告がある

			規格	用法	1錠薬価(円)	1か月薬価(円)
第1世代	エチドロン酸二ナトリウム					
		ダイドロネル(2週間投与、再投与10～12週間)	200mg	1日1回	198.6	2780.4(14日間)
第2世代	アレンドロン酸ナトリウム水和物					
		ボナロン	5mg	1日1回	32.1	963.0
			35mg	1週間1回	181.4	725.6
			内用ゼリー	1週間1回	494.5	1978.0
		フォサマック	35mg	1週間1回	166.3	665.2
		GE	5mg	1日1回	14.3～46.5	429.0～1395.0
			35mg	1週間1回	87.4～228.6	349.6～914.4
	イバンドロン酸ナトリウム水和物					
		ボンビバ	100mg	月1回	1360.9	1360.9
第3世代	リセドロン酸ナトリウム水和物					
		アクトネル	2.5mg	1日1回	39.2	1176.0
			17.5mg	1週間1回	165.3	661.2
			75mg	月1回	731.0	731.0
		ベネット	2.5mg	1日1回	39.2	1176.0
			17.5mg	1週間1回	165.3	661.2
			75mg	月1回	731.0	731.0
		GE	2.5mg	1日1回	17.8～39.2	534.0～1176.0
			17.5mg	1週間1回	81.2～87.8	324.8～351.2
			75mg	月1回	292.4	292.4
	ミノドロン酸水和物					
		リカルボン	1mg	1日1回	45.1	1353.0
			50mg	4週間1回	1114.3	1114.3
		ボノテオ	1mg	1日1回	41.6	1248.0
			50mg	4週間1回	1046.9	1046.9
		GE	1mg	1日1回	13.8～18.4	414.0～552.0
			50mg	4週間1回	309.9～472.8	309.9～472.8

ビスフオスフオネート製剤 推奨後発品

アレンドロン酸:

「サワイ」「トーワ」「NIG」

ミノドロン酸:

「サワイ」「JG」「日医工」「三笠」

リセドロン酸:

「サワイ」「トーワ」「日医工」